

糸燃後備

和紙糸「備和」広げる

「ジャパンヤーンフェア」初出展

糸燃加工業の備後燃糸（広島県福山市）は、今月22～24日に愛知県一宮市で開かれる「ジャパンヤーンフェア」（JY）に初めて出展する。自販で展開する和紙糸「備和」をアピールし、販路拡大につなげるとともに、和

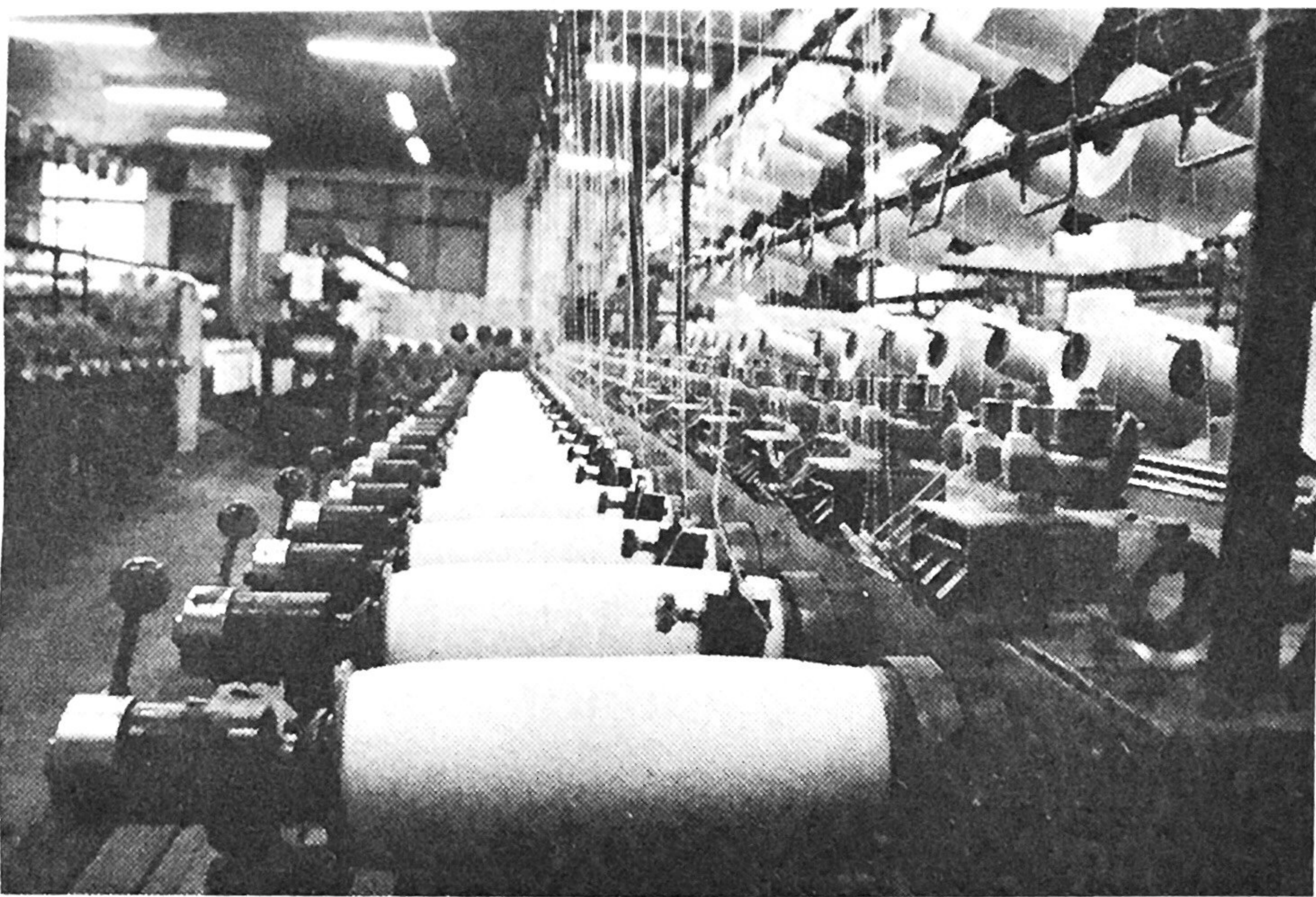
紙糸を使った素材開発ができる企業との関係構築も期待する。

同社は2009年に和紙事業部を立ち上げ、和紙を使った燃糸の自販を開始。ここ数年で販売が軌道に乗り始めた。ジーゼンズや婦人服、子供服な

しているが、その違いも発信していきたい」と話す。

備和は原料にこだわり、四国の製紙会社が手すきの製法を忠実に機械化した丸網ヤンキー式抄紙機という設備で抄紙した機械すき和紙を使用。編み物用では和紙と他の

素材とを複合した交擦糸で編み立てやすい糸を開発するなど、燃糸加工業としてのこだわりを追求した。



JY出展で燃糸加工業としてのこだわりを発信する

どの用途として需要が広がり販売量が倍増したことで、現在では同社の売り上げの半分近くを和紙糸の販売が占める。光成明浩社長は「他社でも和紙糸を出

JYでは用途に応じて強燃加工や交擦加工を施したさらっとした風合いを持つ「新感覚な糸」としてアピール。備蓄する和紙100%とポリエステルとの複合糸を展示するほか、供給先が開発し

た生地や製品も紹介し、和紙糸の魅力を伝える。「試験のための少量オーダーも積極的に受ける」（光成社長）とともに、

これまで展示会に出展した経験がないだけに、「社員教育」にもつなげながら、市場開拓を進めていく。